

## 【特徴】

小児の循環器疾患（先天性心疾患、不整脈、心筋疾患、川崎病後遺症など）の診断と治療を実践している。新生児期の危急的心疾患の診断・治療から先天性心疾患のカテーテル治療、不整脈のカテーテル治療、学齢期の心疾患の管理など小児循環器の幅広い分野の実際を研修できる。

## 【研修目標】

## 1. 一般目標

小児の主な循環器疾患についてその病態と重症度を把握し適切な治療方針を立案できるようになるために、理学所見、胸部X線写真、心電図、超音波画像、心臓カテーテル検査所見を評価し活用できるようになる。

## 2. 行動目標

- (1) 主な小児循環器疾患の症状、自然歴を理解し説明できる。
- (2) 頻度の高い、心室中隔欠損、心房中隔欠損、動脈管開存、Fallot 四徴、期外収縮、房室ブロック、頻拍の病態を把握し診断できる。
- (3) 視診で、顔貌、チアノーゼ、陥没呼吸、バチ指、前胸部膨隆、浮腫の所見をとれる。
- (4) 触診で、末梢脈の上下肢差、微弱、bounding pulse、頸部振戦、肝腫の所見をとれる。
- (5) 聴診で、心音所見を記載し、心雑音の鑑別ができる。
- (6) 胸部X線写真上、心胸郭比の測定、心陰影、肺血管陰影の評価ができる。
- (7) 12誘導心電図を記録でき、心房、心室の肥大などの所見を正しく評価できる。
- (8) 心電図記録から房室ブロック、脚ブロック、期外収縮（上室性、心室性）、WPW、頻拍（上室性、心室性）などの基本的な不整脈の診断ができる。
- (9) 運動負荷心電図検査を施行でき、結果を評価できる。
- (10) 心臓超音波の基本画像を理解し描出でき、心機能・血流評価ができる。
- (11) 頻度の高い先天性心疾患（心室中隔欠損、心房中隔欠損、動脈管開存、Fallot 四徴など）の心臓超音波画像を理解でき、病型、重症度を評価できる。
- (12) 川崎病の病態、自然歴を理解し、冠動脈病変を評価できる。
- (13) 心臓カテーテル検査を上級医と実施し、血行動態、造影所見を評価できる。
- (14) 心臓電気生理学的検査の基本的な手技とその判読方法を理解できる。
- (15) 学校心臓検診要精検者に対する検査結果から管理区分を決めることができる。
- (16) 循環器治療薬（利尿薬、強心薬、血管拡張薬、抗不整脈薬、抗血栓薬など）の作用機序、小児薬用量、投与方法、副作用を知り、病態に応じた使用を理解できる。
- (17) 小児科専門医資格を取得するための要件を満たすと共に小児循環器専門医資格取得のための基礎を習得する。

## 【方略】

- (1) 入院患者を担当し、病歴、現症、検査所見を記載、上級医とともに治療方針を立案実践する。
- (2) 症例検討カンファレンスにて病状、治療方針を検討することにより疾患と検査結果、治療への理解を深める。
- (3) 運動負荷心電図検査を実習実践する。
- (4) 心臓超音波検査を上級医の指導のもと実習する。
- (5) 心臓カテーテル検査、カテーテル治療を指導医と共に実施し、その結果を小児心臓血管外科との合同カンファレンスにて検討する。
- (6) 心臓電気生理学的検査、不整脈カテーテル治療に参加し指導医の指導を受け実習する。

- (7) 学校心臓検診の要精検者の心臓検診に参加し、所見記載、管理区分の決定を実習する。
- (8) 小児内科系診療科合同カンファレンスでの症例検討、研究発表に参加する。
- (9) 各種研究会、学会での発表を行い、少なくとも1編の論文報告を行う。

**【評価】**

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

**【見学等問い合わせ先】**

小児循環器内科部長 村上 洋介